

# モンゴルに助産講義

## テレビ会議を活用



モンゴルと日本をテレビ会議のネットワークでつなぎ、モンゴルの看護師や助産師に、日本の大学教授らが妊娠期の健康診査など母子保健に関する講義を行う試みが始まった。母子保健に関する教育を受ける機会の少ないモンゴルで、看護や助産分野のリーダーを育てることが目的だ。初回、予想を超える440人の若い女性たちがモンゴル国内5カ所の会場に集まり、必死でメモをとったり画面を通じて質問したりした。講義を企画した側も「今後も続けたい」としている。

(大井田ひろみ)

## 世界銀行 途上国のリーダー育成



スクリーンに映し出されたモンゴルの会場の一つ。いずれも4月30日、千代田区内幸町2丁目



吉野八重講師

世界銀行の途上国の人材育成に関するプログラムなどを実施する「世界銀行東京開発トレーニングセンター」(千代田区内幸町2丁目)と北里大看護学部が共催した。4月30日、同センターの一室には、5会場を映し出す大きなスクリーンが置かれ、同大の教授や通訳が並んで座った。助産概論の講義では生命倫理にも触れた。教授が問いかける。

「妊娠した女性が医師から『検査の結果、子どもに重い障害がある』とわかった。中絶するのなら早い方がいい」と言われ、あなたに相談に来ました。どうしますか」

「出産して可能な限り治療する」「中絶する」などの意見が出た。教授は「たった一つの正解はありません。答えが一つでないことを学ぶことが大切です」と訴えた。

その後、モンゴルからは「日本で妊産婦の死亡率を下

げるために何をしているか」「看護師の給与水準は」など次々と質問が飛んだ。この日の講義は、妊娠期の健康診査の方法や看護師の役割など約9時間に及んだ。5月22日、異常分娩の対応や新生児の健康診査など2回目の講義が予定されている。

テレビ講義のきっかけは、同学部の吉野八重講師(40)が02年、日本看護協会の仕事で看護教育を進めるためにモンゴルを訪れ、学生の母子保健の教科書を見て驚いたことに

始まる。50年ほど前にロシアから導入された薄い小冊子がまだ教科書として使われていたからだ。その後もモンゴルを訪問、パソコンやインターネットなどのインフラが不備で、体系的な学習や最新の知識を習得することが難しいことが分かった。一方、1歳未満の乳児の死亡率は高く、日本が千人あたり3人だったのに対し、モンゴルは22人と7倍以上の開きがあった(07年、国連人口基金調べ)。

だが、現地で会った看護師らはやる気に満ちていると吉野さんは実感。日本から持続して学べる機会を作れないかと考えていた時、日本にある世銀のセンターのビデオ会議ネットワークを知った。モンゴルをはじめ約140カ国を衛星通信などで結び、画面を通じてやりとりができた同センターのネットワークを活用できないかと問い合わせ、世銀側が快諾。今回の試みとなった。

これを用いれば、日本側には実際に教授たちが渡航するよりも日程調整が簡単で、費用がかからず、モンゴル側にも最新の情報に多くの人がアクセスできるなどの長所があるという。今回の講義は当初3000人を予定していたが、予想を超える受講者が集まった。20後半から30代の女性が中で、「学びたい」と親類か借金をして駆けつけた人もいた。受講者は今後、地域について学んだ内容を伝え、講義の教材をもとに地元事情考慮したモンゴル語の教科書も編集するという。

## ちびっ子元気に完歩

### スリーデーマーチ閉幕



こどもの日、小さな子どもを連れた参加者も=都立小金井公園

都立小金井公園を中心に開かれた第13回東京国際スリーデーマーチ(小金井市、日本ウォーキング協会、朝日新聞社、日刊スポーツ新聞社など主催)が5日、閉幕した。こどもの日とあってちびっ子ウォーカーの姿が目立ち、ゴール地点のステージでも地元の子どもダンスチームなどが出演した。

完歩者を迎えるステージで注目を集めたのは、小金井市の小中学生で作るヒップホップダンスチーム「いん・すまいる」。18人が軽快なダンスを次々と披露し、盛んな拍手を浴びた。

代表の山田歌子さんは「開放感があつて楽しく踊れた」と笑顔で話した。「三百六十五歩のマーチ」で知られる歌手で、日本ウォーキング協会理事の水前寺清子さんも登場。来場者と一緒に「マーチ」に合わせた体操をして、体をほぐした。

## 2人組の強盗が現金15万円奪う

### プロレス用マスクを

演じて会場を盛り上げた。3日間の延べ参加数は2万6088人だった。

千葉県船橋市から、船橋ひかり幼稚園の園児と保護者ら計75人が10キロコースに挑戦した。野田園長は「ちよっとつらいけど、親子でいい経験になったでしょう」。4時半ほどで全員そろってゴールし、「完歩証」を受け取った。

5日午後6時45分すぎ、代田区三崎町2丁目のビル階にあるプロレス用のマスク販売店「プロレスマニア館」男性店員(70)から「強盗にられた」と110番があつた。神田署の調べでは、午後時40分ごろ、客として店に入った男2人がこの店員顔面や胸をけり、金を出せと脅し、店員のショルダーバッグ、店内の棚にあった提げ金庫から現金約5万円奪って逃走した。ショルダーバッグの中には現金約10万円が入っていたという。店員唇を切るなどの軽傷を負った。同署は強盗致傷事件として調べている。男は2人と30歳くらい。1人は身長105センチ、茶髪で白っぽい上下。もう1人は身長155センチ、紺色のジャージを着ていたという。

# 混迷のイラク 避難民を写す

講義は、画面を通じてモンゴル側の反応を見ながら進んだ

混迷を深めるイラクから逃れた避難民たちを紹介する写真展「イラク避難民家族の物語」ヨルダンで願う平和」が7日からアイテムフォトギャラリー「シリウス」(新宿区ザリーン)で生ま



ザリーンで生ま